浄泉寺報

第21号
2020年
お盆

煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろずのこと、みなもって、そらごとたわごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします

『歎異抄』

昨年の浄泉寺盂蘭盆会の様子

念仏申すところに、立ち上がる力が与えられる。

浄泉寺住職　望月廣三

仏さんを信じて一回でもいい、なむあみだぶつと念仏すれば間違いなく救われる、と親鸞聖人は教えられました。いかなる修行も学問も要らない、ただ信じて念仏すればそれでよい、と言われた。何と易しい教えだろうか、と思います。が、現実には救われた人などほとんどいません。わが国においても自殺者が毎年三万人を越すくらいですから。

これが現実なのに、どうして一回の念仏で救われるなどと言われたのか、です。しかしこれはじつに簡明なことなのです。

つまり、一回の念仏で救うと言われている仏さまの仰せを「信じ」られるか、どうかなのです。一回の念仏で救われるなんて馬鹿馬鹿しい、信じられるか、―そう思う人には救済は皆無なのです。

この世には難儀な問題は数え切れないほどありますが、「仏さまを信じる」ことほど難儀なことはない、と親鸞聖人は言われています。なるほどそのとおりですね。疑いが無くなれば、不安材料から緩和されますから。

- 若坊守のひとりごと -

娘が私に「お母さんは右利き？」と尋ねてきたので、そうだと答えると「私もみんなも右利きだね」と言いました。実際には左利きの人もいますが、娘の意識にはないようでした。私達の社会は多数派の右利きが暮らしやすいように作られています。娘はキョトンとしていましたが、例えば駅の改札口は右利きの人が通りやすいようになっていますし、右手で持つと絵が見えるカップは、左手で持つと絵が裏側に回ってしまいます。右利きの娘はたまたま多数派側であるけれども、その優位性の中で無意識に少数派を排除していることに気づけません。

娘の学校には特別支援教室があって、そこでうまく喋れない子や体が動かせない子を身近で見て何か感じているようです。自分とは違うけれど確かに存在して、自分にはない不便を抱えている人達がいる。利き手の気づきを通して、人の多様性にこれからも触れていってほしいなと願います。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏（仏壇）に座る ⑲　　～ 教えを聞く・「聞法」 ～

浄泉寺では、毎月住職の法話を聞く同朋会が開かれています。浄土真宗のお寺では、仏さまのお話を聞くこと（聞法）が特に大切にされ、あらゆる法要の時に必ず法話を聞きます。時にホワイトボードに板書をしたりしながら…。その様子だけを見ると「なんだか、学校の授業みたいだ」と思われる方もおられるかもしれません。しかし、学校の授業が物を覚え、少しずつ賢くなって、自分を高めようとするものであるとするならば、お寺での聞法は、世間の中で知らず知らず着飾ることを覚えたその飾りを、一枚一枚剥ぎ取ってゆく歩みです。

人間は高い所に登るのが大好きです。まもなく１歳２か月になる息子も、登れるものがあればなんでも登りたがります。これが人間の「向上心」といわれるもので、少しでも高い所、良い自分になろうという計らいは死ぬまで消えないのでしょう。一方、仏さまの教えを聞くということは、「向下の道」の歩みです。思い通りにならない日常の出来事に出あい、自分自身を見つめてみると、そこにあるどうしようもない人間の愚かさに気づかされ、「向上心」が実は当てにならないものであったと知らされてゆく道です。親鸞聖人が、２９歳で比叡山での「向上心」による修行を止めて、山をおりたことの意味がここにあるような気がします。

「信じるということは、任せることなのだ」と住職は法話で語っています。これが「向上」の人間にとっては難儀なことです。しかし、老病死に代表される人間の身の事実は、結局のところ、私の計らいを超えていることであって、任せるより他ないことであったのでした。

（浄泉寺若院・釋亜世）

令和２年(2020 年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成 31 令和元年(2019 年)亡
三回忌	平成 30 年(2018 年)亡
七回忌	平成 26 年(2014 年)亡
十三回忌	平成 20 年(2008 年)亡
十七回忌	平成 16 年(2004 年)亡
二十五回忌	平成 8 年(1996 年)亡
三十三回忌	昭和 63 年(1988 年)亡
五十回忌	昭和 46 年(1971 年)亡

浄泉寺からのお知らせ

● 秋彼岸のお参り ●

九月のお彼岸の日程は、後日お葉書にてお知らせします。

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職による法話の後、皆さんでお茶を飲みながら語り合います。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお誘い合わせお参りください。今後の日程等の問合せは浄泉寺まで。

＜発行元・問い合わせ＞
真宗大谷派　楠林山　浄　泉　寺　　電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町４－３－４３
ホームページ http://jyosenji.asei.info